

豊かな生活力をはぐくむ 技術・家庭科教育

— 学びと生活をつなぐ授業の工夫 —

愛知県中学校産業教育研究協議会研究部

江南市立布袋中学校 教諭 佐野 守孝

1 はじめに

近年の技術の進歩や情報化社会の発展により、欲しいものや情報がすぐに手に入り、私たちの生活は格段に便利になり、物質的な豊かさを享受できるようになっている。反面、製品の高性能化にともなうブラックボックス化や、大量生産による品物が溢れ、製品を自分で修理することも減っている。加えて、少子化や核家族化、地域のコミュニティの衰退により、人とかかわりが希薄になり、技能や知恵の伝承を受ける機会も減っている。そのため、生徒は、生活をよりよくしようと創意工夫することができなくなっている。

これまで愛知県では、問題解決的な学習を基盤に、教科の学びと実際の生活場面を結びつける「アクション」により、生徒が生きる力を身につけることを研究の柱に、授業のあり方を追究してきた。こうした取り組みにより、生徒の学習意欲を高め、学んだことを生活に生かそうとする態度が培われてきた。

しかし、生徒自らが積極的に生活にかかわり、その中で直面する様々な問題に対して、学んだ知識や技術を活用して解決していこうとする意欲や態度は、十分に身につけているとは言えなかった。

さらに、近年、環境問題に対する取り組みの重要性が増す中、これまでの大量生産大量消費の考え方を転換し、生活を取り巻く問題に目を向けていくことが、生徒にとって、物質的・精神的な両面での生活の豊かさにつながっていくと考える。そのために、授業を生活の場とさらにかかわらせ、授業で学んだ知識や技術が、生活と密着していることを理解し、生徒自身の生活の中で生かせるようにするとともに、家庭や社会に貢献しようとする態度を育てる必要がある。

そこで、学んだ知識や技術を活用し、自らの手でよりよい生活を創り上げるために必要な力を『豊か

な生活力』とし、学びと生活をつなぐために、社会や地域、家庭での日常生活を学びにつなげ、学びを生活に生かす効果的な手だてを明らかにし、「豊かな生活力」を育むことを目標に研究を進めることとした。

2 研究のねらい

(1) めざす生徒の姿

「豊かな生活力」を身につけた、めざす生徒の姿を、次の2点とした。

- ・家庭生活や社会生活の中で起きる問題に気づき、身につけた知識と技術を生かし、自ら解決しようとする生徒
- ・学校での学びを家庭生活や社会生活と結びつけ、生活の中で役立て、社会に貢献しようとする生徒

(2) 研究の仮説

これまでの本県の研究では、「学んだ知識や技術を生活に結びつける手だて」を「アクション」とし、問題解決的な学習過程に取り入れ、実践を進めてきた。本研究では、さらに「アクション」を発展させ、生活の中で活用する力を高めることで、「豊かな生活力」をはぐくむことができると考え、次のような仮説を考えた。

問題解決的な学習過程で構想した授業の中に、生活との関連を深めたアクションを設定し、学んだ知識や技術を生活の中で活用する力を高めることで、豊かな生活力をはぐくむことができる。

・「アクション」とは

日常生活の具体的な場面と結びつけて学ぶことを通して、授業で学んだ知識や技術を、生活の中で活用する力を高める場

・本研究における「活用する力」とは

問題解決的な学習を通して習得した、基礎的な知識や技術と探究する力をもとに、生活の中の具体的な問題を解決できる力

(3) 研究構想図



3 研究の内容

(1) 問題解決的な学習過程について

豊かな生活力をはぐくむためには、生徒自らが「何が問題なのか」を認識し、学んだ知識や技術を駆使して解決への見通しを持ち、自分の考えを確かめ解決していく。そして、その過程で得た知識や技術を、実際の生活の中で生かしていくという思考や態度を培うことが必要である。そのため、学習過程に「つかむ」「見通す」「確かめる」「生かす」という4つの段階で構成する、問題解決的な学習過程を設定することが効果的であると考える。各段階とその段階における主なねらいは次のとおりである。

・問題解決的な学習過程

①「つかむ」

これまでの学習や体験から、生活の中の問題に気づき、課題をもつ。

②「見通す」

課題を解決するために必要な知識や技術

を身につけるとともに、どのような方法で課題を解決していくのか追究し、自分なりの解決への見通しを立てる。

③「確かめる」

見通す段階で考えた自分なりの解決方法に沿って追究・実践し、課題の解決を目指す。自分の考えた解決方法を、必要に応じて、修正しながら確かめていく。

④「生かす」

これまでに得た解決方法を発表し、その成果を共有する。そして、その学習成果を生活の中で生かしていく。

- ・ 問題解決的な学習過程については、原則1～4時間程度を一つの単位として展開し、「つかむ→見通す→確かめる→生かす」の学習過程で繰り返し学ぶ中で、生徒が生活の中の問題を解決していく力をはぐくんでいく。
- ・ 単元の中には、問題解決的な学習過程に含まれない時間もありえる。

知識や技能の定着をはかる授業 など

(2) 生活との関連を深めたアクションについて

生徒が授業で学んだ知識や技術は、生活の中で活用されることが少なくなっている。それは、学んだ知識や技術と、家庭生活や社会生活との結びつきが弱いと考えられ、技術・家庭科の授業を、生徒の生活とより関連を深めた内容とし、構想していく必要がある。そこで、生活との関連を深めた、次のようなアクションが必要と考えた。

① 日常生活の中で見つけた問題点を具体的に
に取り上げ、学んだ知識や技術を生かし解
決を図る場。

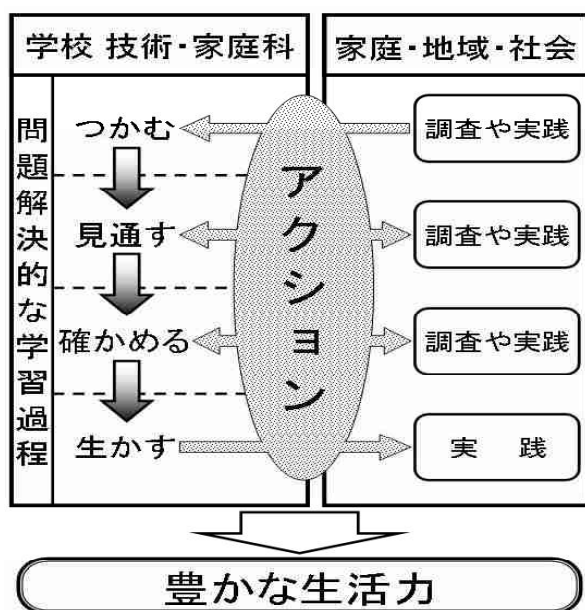
② 授業で学んだことを生かして、生活の中
で実践する場面を設定し、その中で得た疑
問や問題を、さらなる学びに生かす場。

具体的には、生活と学びを結びつけるのに有効にはたらく「手だて」（旧アクション）を、ふくらませたり、効果的に組み合わせたりした「場」

をつくる。これを「アクション」と定義する。

アクションは、学習内容や単元の流れの中で、必要に応じて効果的に展開する。たとえば、授業の中の一部である場合もあれば、1時間の授業すべてが「アクション」となる場合や、数時間の授業にまたがって1つの「アクション」が展開される場合もある。

問題解決的な学習過程とアクション



(3) 実践内容

① 実践例 1

「材料と加工に関する技術」の取り組み

市販の組み立て家具（カラーボックス等）を参考に、作品の設計・製作をおこない、創意工夫した作品作りに取り組んでいる。家庭にある家具を調査したり、組み立て順序を考えるアクションとともに、問題解決的な学習過程による学びを展開している。

<問題解決的な学習過程の例>

つかむ	… カラーボックスの実物から、その材質の特徴に気づく。
見通す	… カラーボックスの材料の構造を予想する。
確かめる	… 切断した材料の断面を観察し、材料の構造や特徴を確認する。
生かす	… 家庭の家具を調べ、材料の特徴を生かした使い方を調査する。



切断材料の観察



家具材料の学習

この他、組み立ての順序を考える授業など、問題解決的な学習過程による学びを繰り返し展開することで、生徒が生活の中の問題を解決していく力をはぐくむことができた。

② 実践例 2

「食生活と自立」の取り組み

食生活における健康や安全、環境、さらに食文化の継承などの問題について考え、健康と食の安全を意識した食生活を送るために、食品の選択方法や調理方法を身につけることをめざし、「ヘルシー&セーフティな食事をつくろう」という単元を位置づけ、実践している。

<アクションの例>

- ・市販と手作りの冷凍食品を比較し、コンビニ食やインスタント食品の是非を問う。
- ・地域の生産者や市の農業関係者から聞き取り調査をし、地産地消について考える。
- ・地元の食材を使ったオリジナル料理をつくり、家庭や地域に発信する。



冷凍食品作り



オリジナル料理

地域の生産者や農業関係者の協力を得たことで、生徒個々の家庭環境にかかわらず、地域から学び、地域に生かす場ができ、これまで以上に、家庭や地域に目を向け、健康で安全な食生活のために、創意工夫しようとする姿勢をはぐくむことができた。

③ 実践例 3

「エネルギー変換に関する技術」の取り組み

学校で学んだことが、社会に役に立つことを実感させ、生活をよりよくしていこうとする意欲をはぐくむことを目標として、廃棄された自転車を修理・再生し、地域で役立てる取り組みをしている。



自転車の整備

＜アクションの例＞

- ・ 駅や商業施設の自転車置き場を調査する。
- ・ 家庭の自転車の整備する。
- ・ 地域の廃棄自転車を修理・整備し、地域で活用してもらう。

これらのアクションを通して、地域社会から学び、授業で学んだことを生かして家庭や社会に貢献する経験を通して、身近な生活の中の問題や今日的課題である環境問題についての生徒の意識や、問題解決のための意欲を高めることができた。

④ 実践例 4

「家族・家庭と子どもの成長」の取り組み

家族・家庭の学習は、家庭環境が複雑な生徒もあり、プライバシーへの配慮が必要で、指導が難しい。そこで、ゲスト・ティーチャーを招いて話を聞いたり、新聞報道を活用したり、マンガやテレビの中の家族を題材したりして、自分の家庭や地域の生活に結びつくように、アクションを工夫した。このようなアクションをによる学びを積み重ねることで、家族の多様な問題を解決しようとする態度をはぐくむことができた。



ゲストティーチャー



調べ学習の発表

4 研究の成果

愛知県では、これまでも生徒の学びと生活の結びつきを深める手だてを柱の一つとして研究を進めてきた。本研究では、「アクション」として、生活と学びのつながりを深めた学習の場を充実させ、学んだことを生活の中で活用する経験を積み重ねた。その結果、学習や生活の中の課題に積極的に取り組み、創意工夫して解決していこうとする生徒が育ちつつある。具体的には、以下の通りである。

- ・ 生活の中の具体的な問題や、実践の中で生まれた疑問をもとにして学習する「アクション」を通して、生徒は学びと生活の結びつきを実感し、技術や生活に関する学習に取り組む意欲を高めることができた。
- ・ 授業で学んだことをもとに生活の中で具体的に実践させる「アクション」によって、生徒が必要な知識や技術を学ぼうとする意欲が向上し、社会や生活の向上に向けて積極的に創意工夫したり、家庭や地域・社会に貢献しようとする、実践的な態度をはぐくむことができた。
- ・ 問題解決的な学習過程で構成した学習を積み重ねる中で、生徒は、生活の中の問題を分析し、解決方法の見通しを立て、試行錯誤しながら、問題の解決に向けて創意工夫して取り組む意欲を高めることができた。

5 今後の課題

課題は以下の通りである。

- ・ 学習指導要領にもとづき、問題解決的な学習過程と生活との関連を深めた「アクション」を効果的に設定した教育課程を構成する。
- ・ 本研究では、家庭や地域社会を生徒の学びを、より強く結びつけることをめざしている。しかし、家庭や地域によっては、様々な事情や問題をかかえている場合もあり、各家庭や地域、生徒の心情に配慮しつつ、学校での学習と生活を深く結びつけ、「豊かな生活力」をはぐくむ、より効果的な「アクション」を模索する。
- ・ 問題解決的な学習過程と「アクション」の成果の検証方法を明確にし、その有効性を評価し、以後の実践に改善に生かす。